

3 月号
VOL. 470

土會奈良



SHIKAI
2013 NARA

表紙のことば

無為庵（森本邸）



生駒市の北部、竹林で有名な高山に静かにたたずむ茶室無為庵。切妻造一文字瓦葺きで、広間から続く縁側の北側に渡り廊下を介して建つ。茶室は3畳、渡り廊下と茶室の間に在る1畳の水屋を含んだ全体の広さが4畳という、狭小な空間である。西壁右側ににじり口を開け、にじり口から見た正面に壁床を構える。西壁は2箇所の下地窓、北壁には連子窓を開ける。それぞれの窓の外側には茶室の重要な要素である「明るさ」の加減を調整するためにすだれを配し、明る過ぎない、ほの暗い空間づくりへの配慮をする。炉は本勝手向切りとし、炉縁は善光寺の古材を使用。炉先には小板を挟み松の地板を納める。天井は点前座と床の間前は平天井、にじり口上は掛け込みの化粧屋根裏とする。平天井は庭草をフロッタージュという技法で表現したご当主の絵に煤竹をあしらった吊天井、化粧屋根裏は富雄川に自生する葦を使った葦簀張りとし、垂木や小舞には竹を使用。井戸屋形の柱や梁を使用して建てられたというこの茶室は、妻方向に入れた2本の太鼓梁とこのうち北側の梁に入る2本の曲り材の方杖がこの空間を特徴づけている。竹林の中の静かな山里に構えるこの茶室は、素朴な材料（竹、葦や土壁など）を使って造られ、河原の自然石や庭木がうまく配置された露地をもち、その上ご当主の趣味も生かされ、それらのバランスはさすがに手際よく美しいたたずまいである。

昨年4月から始めました女性委員会茶室部会の表紙のことばへの投稿は今月号をもちまして終了させていただきます。今回の活動では出版当時のような慌しさのない少し落ち着いた状況の中、当時を振り返りながら新たな気持ちで取り組むことができ、出版本についての反省点も含め茶室について学び少しは理解を深めることができたと思っております。このような機会を与えていただきましたことに深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

（記・女性委員会 宮崎眞友美）

情報・広報委員会

委員長	福西 保夫	
副委員長	田上 圭吾	松尾 憲治
委員	乾井 哲	岩城由里子
	鶴山 治	折目 貴司
	小松原寛俊	崎山 泰正
	辻 元二	福本 保治
	宮浦 重彦	森馬 康之

Contents

001

「全国ヘリテージマネージャー
ネットワーク協議会とその活動」

003

青年委員会

「第20回近畿アーキテクト2013
地域実践活動発表会」

004

「既存木造住宅の耐震診断・補強設計
講習会」《限界耐力計算》

005

「なら・まちづくりコンシェルジュ」

007

生駒支部

「若山滋氏講演会」報告

008

お知らせ

「フォーラム
奈良の景観とまちづくり！」他

全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会とその活動

第1回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会が、2013年2月3日(日)に、東京都中央区晴海にある(社)東京建築士会の会議室において開催されました。出席は地域ネットワークや賛同団体の代表で52名でした。

まず、最初に「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会(以下「協議会」という。)」の発足の背景について説明します。2010年には、文化庁の助成で、千葉・三重・奈良・鳥取・大分県の5建築士会が「地域の歴史的建造物の保全活用事業」に着手することとなりましたが、これに合わせて、公益社団法人日本建築士会連合会(以下「連合会」という。)は、専門家養成のための共通テキストを作成しました。また、専門家養成事業の先進県である兵庫・神奈川・静岡県では、「歴史的建造物の保全活用提案事業」が実施されました。そして、2011年度には、「連合会」に「ヘリテージ保全活用支援タスクフォース」を立ち上げ、歴史的建造物の保全活用の推進を図ることとされました。2012年には京都で「歴史的建造物マネージャー・シンポジウム」が開催された際に、ヘリテージマネージャーとして活動を展開している7府県の代表が集まり、情報交換と共に、全国ネットワーク組織の設立が提案されました。これらの動きを受けて、「連合会」は、全国組織の設立準備会を設置し、目的・事業・運営組織等について検討を行われ、昨年2012年10月の茨城での全国大会において、「協議会」が設立されたものです。



本「協議会」は、歴史的建造物の保全・活用に携わる専門家(「ヘリテージマネージャー」)で構成する地域ネットワークが全国的に連携し、ヘリテージマネージャーに関する情報交流、普及等を行うことにより、ヘリテージマネー

ジャー活動の発展と歴史的建造物の保全・活用の促進に資することを目的としています。会員構成は、ヘリテージマネージャーによる地域ネットワーク及び本協議会の趣旨に賛同する者で、現在、地域ネットワークの7団体と、各建築士会や個人として賛同する者として29団体1個人となっています。奈良県は、地域ネットワークの(仮称)奈良ヘリテージ支援センターとして加盟しています。

そして、「協議会」は上記の目的を達成するために、次のような事業を行うこととされています。

- (1)ヘリテージマネージャーに関する情報交換
- (2)ヘリテージマネージャーの立上げに関する支援
- (3)ヘリテージマネージャー全国大会(開催)の決定
- (4)ヘリテージマネージャーに関する広報、調査研究
- (5)災害時における広域的なネットワーク構築の支援
- (6)歴史的建造物の保全・活用等に関する政策提言
- (7)その他、本協議会の目的を達成するために必要なこと

また、「協議会」の経費は、有志の寄付金その他により弁済することとされており、事務局は、当面の間、「連合会」に置かれています。

今回の総会の冒頭に当たって、事前に実施された「ヘリテージマネージャーに関するアンケート調査」の結果報告がありました。建築士会におけるヘリテージマネージャー育成の取り組み状況は、2001年兵庫県、2007年徳島県、2008年静岡県を始め、現在着手済みの建築士会は17、今後着手を予定している建築士会は18で、合計で35となり、ヘリテージマネージャー育成については多くの単位建築士会で取り組みが進んできていることがわかります。アンケートでは、①専門家育成講習会の実施内容、②登録の要件と登録先、③地域ネットワークの活動分野の内容、④ホームページや活動報告書の有無、⑤助成金事業の活用などです。その他に、「協議会」等への自由意見・要望には、ヘリテージマネージャー組織の確立及び社会的な認知度を上げる方法や活動財源確保のノウハウを知りたいなどが記載されていました。

次に、6つの団体からの事例発表がありました。

まず、育成講習会の現状と課題について、群馬県建築士会の新井晴夫氏からは、平成24年度から「群馬県歴史的建造物の保全・活用専門家養成講座」に取り組み、その実施に当たって運営組織のあり方、受講料、講師依頼、日程調整などで苦労したことが報告されました。岡山県建築士会の中村陽二氏からは、「歴史的建造物保全・活用促進事業創設について」で、講習時間を基礎のみの18時間とした経

緯を説明されました。

地域ネットワーク3団体から、各ヘリテージマネージャーの組織についての活動内容や考え方の報告がありました。「KOMOMO（古材文化の会伝統建築保存・活用マネージャー会）」の笠原啓史氏からは、建築士会ではなくNPO法人古材文化の会が主催した「伝統建築保存活用マネージャー養成講座」修了者による多彩な活動について説明され「ひょうごヘリテージ機構」の兵庫県建築士会の沢田伸氏は、10年にわたる長い活動を踏まえ、「開放型ネットワークでフロンティア開拓」「この指とまれ方式」により、活動ネットワークの構築や運営を行っている旨を話されました。静岡県ヘリテージセンター（SHEC）の静岡県建築士会景観整備機構の塩見寛氏からは、平常時と非常時における地域文化財専門家の役割について考えを述べられました。

最後には、ヘリテージマネージャーの新しい取り組みとして、「九州地区における歴史的建造物の被災調査・復旧支援のしくみづくり」と題して、熊本県建築士会の山川満清氏から広域災害の調査・分析を行い、歴史的建造物のリスト化・マップ化、災害時対応マニュアル等を現在検討していることが発表されました。

これらの報告を受け、参加者は6班に分かれてグループ討議を行い、専門家育成講習会での質問や課題を出し合いました。

まず、講習会欠席者の補講の取り扱いについて、どのようにされているかとの質問で、講習会を撮影したDVDを視聴してもらいその後レポート提出することにより受講に変えた事例が挙げられました。また、単位建築士会ではなく、ブロック単位で講習会を開催することはどうか、という話しがでました。修了者のステップアップ講習や、本講習会の目指すレベルは、どうかということについて、登録文化財の登録のための所見が書けることが最低条件ではないかとの意見がありました。そのほか、認定のあり方、講師陣の確保、受講料の額などについて話題となりました。これらを受け、「人材育成について」「活動ネットワークの構築について」「協議会の役割と課題について」の3つをテーマとして今後も意見交換をしていくこととなりました。

最後に、まだ、「協議会」設立後1年目であり、身の丈に合ったものとし継続性を視野に入れつつ、まず、「人材育成の全国展開と活動組織構築の支援」を図ることを当面の目標とし、以下のような「平成25年度の活動計画」が提案され承認されました。

（1）メーリングリストによる情報交流

団体会員となっている士会にヘリテージ担当者を選任していただき、実務担当者レベルでの情報交換を図るためにメーリングリストを作成し、各地域からのイベント情報等や人材育成・活動組織構築に関するQ&Aなどを発信する。

（2）第1回全国ヘリテージマネージャー大会の開催

士会の全国大会にあわせて全国ヘリテージマネージャー大会を開催し、国土交通省や文化庁の担当課の出席をお願いし、各地域の活動成果の報告発表とパネルディスカッションを行う。

（3）第2回「協議会」総会の開催

（4）出前講座への支援

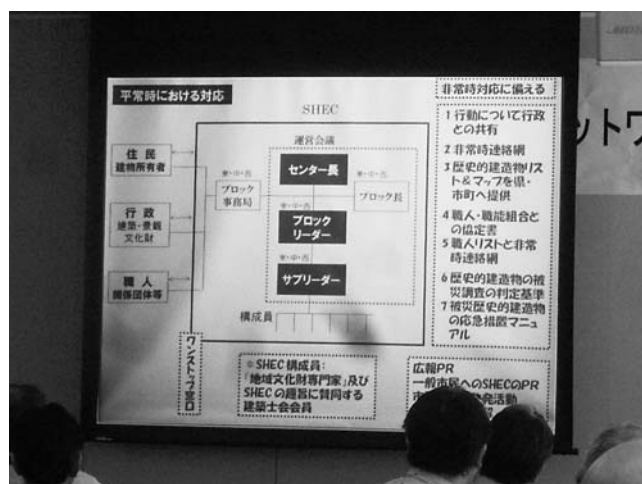
人材育成・活動組織構築にあたって各地域が講師を招聘する場合、「協議会」のホームページに講師リストを掲載し利便を図る。

（5）調査研究活動

「協議会」の議論を踏まえテーマを設定する。活動費については、国等の助成金に応募し調査費用を確保していきたい。

（6）財源については、各種助成金への応募や図書の販売益（専門家育成共通テキスト、各地域からの報告書の提供）を検討していきたい。

以上、第1回「協議会」総会での、事例報告や議論の内容です。まだ、出来たばかりで、費用もなく、思いのみが先行しているようですが、ヘリテージマネージャー制度は、今後、職能を活かした活動の場となり可能性のあると思います。まず、奈良県内でも運営組織化を具体的に始めることを考えています。





青年委員会

第20回近畿アーキテクト2013地域実践活動発表会

テーマ『地域力～創造するコミュニティ～』

去る2月9日（土）に大阪府中央区にある大阪府建築健康会館において第20回近畿あーきてくと2013地域実践活動発表会『地域力～創造するコミュニティ～』が開催されました。

近畿建築士会協議会青年部会では、平成6年度より毎年、各地域に根ざした建築士及び一般市民や団体等がボランティア又は業務として係わる様々な社会貢献活動の発表会として開催しているのが「近畿あーきてくと」です。発表会を通じて、建築士・一般市民の方々・志を共にする他団体の方々・各参加者の相互啓発と活発な交流、様々なテーマの活動情報の共有ネットワークの拡大等々、各社会貢献活動のさらなる成長発展と建築士としての資質向上に寄与することを目指して開催されています。



第一部の発表会ではまず、和歌山県より歴史的建造物映像化の会の中西氏が「歴史的建造物の映像化」というテーマで和歌山市に残る歴史的建造物の映像にナレーションや所有者の方へのインタビュー等により構成される映像資料を作成されている活動の発表でした。

次に京都府より京都府建築士会青年部会の寺川氏が「東山区空き家対策プロジェクト」というテーマで京都市東山区で増加する空き家や管理されない建築物が危険家屋化していく現況を建築士会という立場から空き家を活かす方法を考えるほか、建物のことを知ってもらう活動など、社会や地域に貢献できる活動の発表でした。

続いて滋賀県より栗東市街道百年ファンクラブの野呂氏が「歴史街道と山村集落の一体的再生～その後～」というテーマで第18回近畿あーきてくとで発表された内容の継続事業を報告していただきました。

その次に学生団体より龍野北高等学校環境建築工学科の学生さんが「課題研究（たつの市歴史的建造物修繕工事）」というテーマで兵庫県建築士会龍野支部青年部会や職人さんの指導の下、龍野景観形成地区内にある歴史的建造物を生きた教材として触れながら建物の修繕工事を行われた活動の発表でした。学生団体においては第18回より発表していただいており、学生という限られた期間での感覚が我々社会人のどこかに置いてきてしまったような視点で、毎年新たな刺激になっています。

続いて奈良県より奈良県住宅課の高田氏が「なら・まちづくりコンシェルジュ」というテーマで地域のまちづくり活動を継続してサポートする、知事から任命を受けた県職員である「なら・まちづくりコンシェルジュ」の現場での具体的な活動紹介と、活動の中で感じている専門的な立場で支援する建築専門家（コミュニティ・アーキテクト）の必要性について発表していただきました。



その後大阪府よりいえしまコンシェルジュの中西氏が「姫路市の離島「いえしま」の観光まちづくり」というテーマで姫路市の離島である「いえしま」の情報発信と認知度向上、観光客に対するまちあるきガイド・案内およびコーディネートなどの活動の発表でした。

最後に兵庫県より兵庫県建築士会阪神支部の草野氏が「建築を知らう・地域を知らう～地域工場・材料見学+製作体験会～」というテーマで兵庫県にある建築材料の工場見学に伴い、自ら製作を行う「作成体験」を盛り込んだ一般参加型見学会+製作体験ツアーの開催の活動の発表でした。

第二部の講演では京都大学大学院工学研究科建築学専攻の門内教授より「創造するコミュニティのデザイン～地域景観づくりの実践を踏まえて～」というテーマで、都市景観の魅力、コミュニティにおける景観まちづくりの実践、さらには、新たなデザインビジョンについての講演をしていただきました。

第一部・第二部ともに発表されるテーマや講演いただいた内容が様々で一言に「コミュニティ」といってもいろんな切り口があるのだなあと感じました。

その後の交流パーティーでも定員を上回るほどの参加をいただいて今回の発表会と併せて、『まちづくり』『環境』『教育』『福祉』『健康』『地域の活性化』のみならず、建築士会・建築という枠を越えた連携・協力体制の構築など、いろいろな社会貢献に還元できるような発表会になったのではないかと思います。

最後に、奈良県の発表を担当していただきました高田様、ご参加いただきました皆様、本発表会の開催にご協力・ご支援賜りましたたくさんの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
(記・青年委員会 藤山昭生)



既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会 《限界耐力計算》

平成25年2月2日（土）奈良市ならまちセンターで、限界耐力計算による既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会が開催されました。



平成12年の建築基準法の構造規定の規定が性能規定化され、これまでの「許容応力度等計算」に加えて、「限界耐力計算」が可能になりました。この方法により壁要素を多用することなく日本の伝統的な住宅の耐震改修が可能になりました。

本講習は、講師に（社）日本建築構造技術者協会関西支部（JSCA関西）の榎原健一氏・横田友行氏を招き、受講者80人を超える出席者の中で始まりました。



午前の部では、限界耐力計算による耐震診断の考え方を解説していただきました。私も耐震診断をする機会があるのですが、壁量による一般耐震診断を行ってきました。しかし場合によっては、基礎が少なく石場立てと併用された民家や、差鴨居の設けられた垂れ壁はあるものの耐力壁が少ない民家など、そういった場合、壁量計算のみで判断することに矛盾を感じていました。限界耐力による耐震診断の方が、本来建物が持っている耐震性能をより正確に評価

できる方法であるように感じました。また、奈良でも多くの伝統工法で建てられた木造住宅が多く存在します。これらの建物の保存及び町並みを保存していくという目的からも有効的な手段であるように感じました。

その他、耐震シェルターという考え方を紹介していただきました。耐震改修の場合、工事費が多くかかり、なかなか工事に踏み切れない方が多くおられます。こういった方には有効な方法の一つだと非常に参考になりました。



午後の部では、耐震診断補強設計の事例を説明していただきました。また、木造住宅の簡単な事例による限界耐力計算の演習問題を行いました。流れに沿って計算は出来たのですが、実務で実際に行うとなると、まだまだ疑問に残ることが多くあるように感じました。そういった方のために、JSCA関西主催の木造耐震実務講習会が、毎月開催されているそうです。また、耐震改修技術者を支援するためにさまざまな取り組みをされているようなので、興味のある方はJSCA関西のホームページをご覧ください。えらよいかなと思います。



今回の講習会で、限界耐力の考え方を知って、耐震改修の考え方が広がったように思います。

（記・情報広報担当 宮浦重彦）



連載 PART 7 〔最終回〕 なら・まちづくりコンシェルジュ

1. はじめに

これまで、「なら・まちづくりコンシェルジュ」の活動、アウトプット面を紹介してきましたが、今回はインプット面、コンシェルジュが行っている研修について紹介します。

「なら・まちづくりコンシェルジュ」はまちづくりの情報収集やスキルアップのため、全国町並みゼミへの参加と先進地視察を行っています。全国町並みゼミは予算の都合上、2名程度しか参加できませんが、先進地視察は参加できる者全員で行います。

平成21年度は富田林寺内町を訪問し、市の文化財課と寺内町をまもりそだてる会のお話を伺いました。

平成22年度は京都西陣で町家倶楽部の佐野さん小針さんに町を案内いただきお話を伺いました。

昨年度平成23年度は、景観のアドバイザーとしてお世話になっている東大の堀繁教授と一緒に、伊勢のおはらい町・おかげ横丁を訪問し、人を迎え入れる町のつくり方等についてアドバイスいただきました。

今年度は、丹波篠山。兵庫県の京都府との境に位置する人口4万人あまりの市です。なぜこの地域に着目して訪問したのか、以下に述べます。

2. 丹波篠山と中間支援組織

兵庫県篠山市は、周囲を山に囲まれた盆地の中に位置し、篠山城を中心とした城下町と、周りの集落から成り立っています。豊かな自然の中で育った食べ物がおいしいことで知られ、黒豆や丹波栗、松茸、猪肉等はブランド化されています。城下町には武家屋敷等が保存され、城下町の一部と市東部の福住地区は重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

私たちがこの地域に着目したのは、食べ物につられただけでも、町並みの美しさだけでなく、中間支援組織：NOTE（一般社団法人ノオト）の存在です。

地域コミュニティ（自治会、まちづくり協議会など）の夢を顕在化し、事業計画に落とし、実現するための「触媒」として機能することを基本戦略に、①空き家の活用 ②スローフード ③暮らしのツーリズムの3事業とこれらを支える人材育成、地域ICT等の事業を一体的に展開されています。

昨年の大和町家バンクネットワークネットワーク協議会の勉強会で、NOTE代表の金野幸雄氏の講演を聴いて以来、まちづくりコンシェルジュの間では「篠山に行こう」という話で盛り上がっていました。

奈良県でも今後考えていかななくてはならない、エリアマネジメントを支える中間支援組織のお手本として、NOTE

Eの活動を見せていただき、お話を伺うために2月1日篠山を訪問しました。

今回ご案内いただいたのは、NOTEの3事業の1つ暮らしのツーリズムを創り出すプロジェクトチームROOT（ルート）の谷垣友里氏。NOTEが指定管理者となっている歴史文化施設を皮切りに、城下町の古民家再生事例や集落再生事業の事例を紹介いただきました。



NOTEが指定管理者となり公開されている武家屋敷

3. 城下町での空き家活用

篠山市でも人口減少は進行し、空き家が増加しています。世帯数が増えない以上、空き家を活用するには住宅以外の用途が求められるわけで、NOTEは所有者と使用希望者の仲立ち、マッチングや、改修の相談、建築家の紹介、改修ボランティアの企画等で活躍されています。

篠山にとって幸運だったのは、有名なデザイナーの喜多俊之氏が空き家を活用してギャラリーを開設されたこと。篠山での空き家活用が一気にブランディングされました。



篠山ギャラリーKITAS

その他、飲食店や物販点、事務所等の活用事例を見せていただきましたが、どれもオシャレで、プロデュースの大切さを感じました。

エリアマネジメントにおける中間支援組織について



篠山ギャラリーKITAS内観

4. 集落丸山での古民家活用

集落丸山は城下町の北東5kmくらいにあります。12戸の民家がありますが居住者は5世帯のみです。

この集落で、住民によるNPOと中間支援組織としてのNOTEが連携してLLP（有限責任事業組合）を結成し、古民家を再生した滞在体験施設の運営が行われています。



丸山の古民家

NPOは施設の運営や体験イベントを実施、NOTEは専門家の派遣、市民ファンドの創設・運営、資金調達等総合的な支援を行います。



蔵を改修したフレンチレストラン

現在2棟の宿泊体験施設があり、ミシュラン1つ星の蕎麦屋さんや、神戸北野にあった有名フレンチのシェフのレストランと組み合わせたオーベルジュが人気を博しています。

お話を伺ったNPO代表の佐古田氏からも、豊かな自然や伝統を守りながら、新しい仕組みづくりを行う気概や誇りが伺えました。

5. 今回の成果と今後の取組

篠山への視察目的は、エリアマネジメントにおける中間支援組織のあり方と体制を学ぶことでした。

まちづくりの最先端でがんばる人たちと、その活動をバックアップするNOTEの存在からは、

・事業の進め方・資金調達の方法

等、多くの学ぶべきことがありました。

一足飛びにNOTEの域に達せられるものではありませんが、奈良県においても、地域資源の発掘・発信の次の段階のまちづくりを進めて行かなくてはなりません。

県地域デザイン推進課では、来年度、エリアマネジメントのための中間支援組織の設立を検討しています。これまで2回開催しましたHANARARTも一過性のイベントではなく継続したまちづくりの原動力とするため、中間支援組織との協力による推進体制を考えていきます。

まちづくりの場で活躍されている建築士の方々のご協力をよろしくお願いします。

3月20日には橿原文化会館に「デフレの正体」の著者、藻谷浩介氏をお招きして、エリアマネジメントをテーマとしたフォーラムを開催します。みなさまぜひお越しください。

6. おわりに

昨年9月以来、7回にわたって紙面をお借りし、「なら・まちづくりコンシェルジュ」の活動について紹介させていただきました。

年度末ということもあり、コンシェルジュによる連載は今回で一区切りといたします。

このような場を設けていただきありがとうございました。

先にも述べました中間支援組織の設立には建築士の方々の協力が欠かせません。

これを契機に、よりいっそうの交流をよろしくお願いいたします。

【記：なら・まちづくりコンシェルジュ（奈良県
地域デザイン推進課 民間活動推進係長 辻本長彦）】



生駒支部 若山滋氏講演会 報告

生駒支部主催講演会

若山滋氏講演会「奈良と日本建築」－文学のまなざし－

開催日時：平成25年1月26日

開催場所：生駒セイセイビル

奈良は昨今、遷都1300年や古事記編纂1300年を迎えた節目であります。歴史的文化が注目される中、「万葉集」「古事記」の文学的観点からみた「建築」をテーマに日本建築の空間とその風土を紐解きながらお話頂き、奈良の文化的背景の理解と、そしてこれからの奈良の建築についての在り方について考えていくような講演を企画しました。

若山滋先生は名古屋工業大学で「文学の中に文化的意味を探していきたい。」と万葉集から研究を始められます。

「万葉集」と「古事記」は文化の記録としてつくられ、初めての文字文化が形成されます。当時、シルクロードを通じてガンダーラやギリシャのオリエンタル文化が伝来し、奈良の都は急速に都市化していきます。ひとつの例として正倉院もペルシア様式の積み上げる建築としてあります。

「万葉集」に出てくるワードを数値化していくとおもしろい結果が出たそうです。ひとつは「家」と「やど」というワードが多い点。もうひとつは「寺」というワードが少ないという点です。「家」というワードは詠み人が誰かを想い遠い奈良の都のことを読んでいる歌が多いとのこと。つまり、奈良から主役となり詠んでいる歌は以外に少ないということ、「家＝不在の空間（詠み人や相手）」と考えることができます。「寺」というワードが少ないという点は、都市化や仏教に対して不安や反感があり、背を向けられていたと捉えることができます。離れた場所から都市化する奈良の都をうらやみ、そして故郷を思い出す歌が多いのが万葉集の特徴とのこと。そこには「都市化のルサンチマン」が働いていると仰っています。ルサンチマンとは怨恨・反力・反動といった意味を持ちます。ニーチェの本にもこの言葉が利用され、ネガティブな意味合いで使われていますが、若山先生はポジティブな肯定的な意味合いで使われています。

世界的な建築に目を向けると、石造建築に対する、ルサンチマンとして、モダニズム建築が位置づけられ、コルビジェのサヴォア邸などが挙げられます。日本のルサンチマンを感じる建築としては、ブルーノ・タウトに高く評価された桂離宮や伊勢神宮が挙げられ、これらは仏教建築（法隆寺など）、国際的建築に対するルサンチマンと考えられます。このような文化的節目にあたる文学を研究していくと、その時の文化に対し反力的な動き、ルサンチマンが読み取れるとのこと。です。

京都や禅の文化にも触れながら、近代の文学から建築を読み取るお話に進展します。四迷、鷗外、漱石、荷風らのヨーロッパに渡った人の文学についても興味深いお話がありました。例えば夏目漱石の作品では当時の建築と作品に出てくる女性像を重ねて読むと文化背景が読み取れます。

「坊ちゃん」では西欧的な女性像で美女・豪華さがあるようなイメージです。辰野金吾の建築が世に出た時代です。後期の作品になると主人公の設定から茫然とした不安、アールヌーヴォー、ゼツェッションからバウハウスなどのモダニズムに対する不安として捉えることができます。

現代文学では村上春樹さんの作品から「今まであった地縁の共同体から意識への共同体」といったことを考えることができるのではないかというお話がありました。電子情報社会、ヴァーチャル世界が顕在化し浸透しています。その時代を経て、現在「生きる力＝野生」を求め、風土や植物、動物などリアルなものに意識が向いているというお話で締めくくっていただきました。

質疑応答では「奈良」と「京都」の違いについても触れていただきました。奈良のオリエンタル文化、無文字文化、漢字文化に対して京都の日本文化、文字文化、かな文字文化と二つの文化の大きな転換を知ることができました。



講演会を通して建築文化と文学の密接な関係性を知るとともに、社会背景と建築文化の動きについて感じることができました。長い歴史の流れとこれからの時代の新しく創造していくものが切り離されるものではなく一連の中で生まれていくと、良い風土、町並みが生まれていくのではないかと感じました。

ご講演いただいた若山滋先生、ご参加いただいた方々に、御礼申し上げます。

（記・生駒支部 中村和範）



お知らせ

Information

●フォーラム 奈良の景観とまちづくり！

「奈良の歴史や風土に培われた美しい景観を
未来に繋ぐため私たちが、今、考えること」
日時 3月9日(土) AM10:00～PM4:30
会場 奈良県産業会館 5階大会議室 (大和高田市幸町2番33号)
第1部 景観まちづくり提案事業発表会
地域の文化遺産である町家等を活かした地域活性化への提案
を5地域から発表します。
第2部 第15回奈良県景観調和デザイン賞報告会
表彰された4作品について受賞者の方から思いを語って頂
きます。
第3部 講演「景観形成と専門家の役割－奈良県の景観を考える」
奈良女子大学教授 増井正哉氏
＊専門教育事業講習会受講生修了式も行います
＊参加費無料 一般参加自由 C P D 5 単位
＊詳しい内容は奈良県建築士会ホームページ参照
＊お問い合わせ 申し込み
奈良県建築士会事務局まで
T E L 0742-30-3111 F A X 0742-33-4333

●平成24年度既存木造住宅耐震診断・改修技術者養成講習会

木造住宅耐震診断員登録講習会
開催日時 平成25年3月15日(金) 10:00～16:10
開催場所 奈良県文化会館 小ホール (奈良市登大路町6-2)
主 催 奈良県
＊詳細は奈良県ホームページをご覧ください。
＊詳しくは奈良県建築課までお問い合わせ下さい。

●平成25年度 通常総会の日程

1 日 時 平成25年5月23日(木)
2 場 所 奈良県文化会館

●「奈良県木造住宅・建築物の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関するマニュアル(増補版)」を奈良県建築士会事務局にて販売しています。

販売価格 会員 3,000円 非会員 5,000円

●平成25年度建築士試験日程の案内

1 平成25年一級建築士試験日程(予定)
①申込書配布 4月1日(月)～5月13日(月)
②申込受付 5月9日(木)～5月13日(月)
③「学科の試験」 7月28日(日)
④「学科」合格発表 9月10日(火)頃
⑤「設計製図の試験」 10月13日(日)
⑥「設計製図」合格発表 12月19日(木)頃
2 平成25年二級建築士試験日程(予定)
①申込書配布 3月11日(月)～4月15日(月)

②申込受付 4月11日(木)～4月15日(月)
③「学科の試験」 7月7日(日)
④「学科」合格発表 8月27日(火)頃
⑤「設計製図の試験」 9月15日(日)
⑥「設計製図」合格発表 12月5日(木)頃

3 平成25年木造建築士試験日程(予定)

①申込書配布 3月11日(月)～4月15日(月)
②申込受付 4月11日(木)～4月15日(月)
③「学科の試験」 7月28日(日)
④「学科」合格発表 9月10日(火)頃
⑤「設計製図の試験」 10月13日(日)
⑥「設計製図」合格発表 12月5日(木)頃

＊申込書配布・受付については(社)奈良県建築士会にて行います。
尚、平成25年度建築士の受験申込受付は、これまでの受付方法に加え「郵送による受験申込」を実施予定。(二級・木造建築士の郵送による受験申込受付は過去の受験票(原本)又は可否の通知書(原本)を受験申込書に貼付できる者に限ります。)

＊詳細は(財)建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

●平成25年度 一級・二級・木造建築士定期講習の開催についてのお知らせ 平成25年度は主催が奈良県建築士事務所協会に変わります。

	開催日時	開催場所
第1期	6月7日(金)	奈良県産業会館(大和高田市)
第2期	8月28日(水)	春日野荘(奈良市)
第3期	11月27日(水)	奈良県産業会館(大和高田市)
第4期	平成26年2月頃	未定(奈良市)

＊詳しくは(T E L) 0742-34-8850までお問い合わせ下さい。

●住まいまちづくり委員会 住環境福祉部会

建築設計の構想の中で、太陽光熱を活かした住環境設計を3次元で検討することにより、まさに今必要とされる省光熱住宅が効率よく表現ができる「スケッチアップ」の操作を勉強します。

日時:平成25年3月27日(水) 19:00～

場所:建築士会館 会議室 参加費:500円 定員20名

＊詳しくはホームページをご覧ください。

訃報

奈良県景観調和デザイン賞審査員(平成8年第7回～平成24年第15回)井上博道先生(写真家)が平成24年12月12日死去されました。レンズを通して、奈良の景観を熱く語っておられたやさしい笑顔がわすれられません。ここに、先生への感謝と、ご冥福をお祈り致します。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	〒	住 所 (自宅)	勤 務 先
額 田 孝 一	橿原	630-8115	奈良市大宮町2-3-11-210	(株)竹村工務店
東 川 正 樹	郡山	639-1121	大和郡山市杉町87-11	東川建設(株)
藤 川 道 夫	五條	637-0013	五條市居伝町800 雇用促進住宅2号棟103号	
森 田 昌 宏	橿原	662-0015	西宮市甲陽園本庄町6-50-656	(株)竹中工務店
野 村 厚 子	奈良	631-0842	奈良市菅原町309-13	

編集後記

先月、有るきっかけで、田中敦夫出版記念講演会『近代林業のパイオニア土倉庄三郎の足跡』があると知り参加しました。

近代林業のパイオニアとなり、多くの業績（林業の育成面、運搬面、製品面等）を残され、林業の発展に多大な影響を及ぼした土倉氏はすごい人だと始めて知りました。

そこで、土倉氏の業績を現代にも情報広報（宣伝）を上手く出来れば、衰退している林業を再生できるきっかけとならないかとふっと思いました。

例えば、勝手な発想ですが、今、NHK大河ドラマ「八重の桜」主人公の八重さんが、土倉氏と同志社開校に関わった接点があ

るので、後編で、もし、土倉氏が出演すれば吉野林業をPRすることに繋がるのでないか？

また、現実的に建築士会では地域型住宅ブランド化事業を支援しようとしているので、情報広報を通じ、本事業と土倉庄三郎を発信すれば、吉野林業（川上）～地域型住宅（川下）を繋ぎ、林業再生に寄与できるのでないか？と思いました。

皆さんこのような事業にターゲットを充て情報発信していきたいと思いますのでどうかご連絡をください。次は、『森と近代日本を動かした男』山林王・土倉庄三郎の生涯を読みます。

（記・情報広報委員 崎山泰正）

土 倉 奈 良

通巻586号
平成25年2月1日（発行毎月1回1日発行）

発 行 所 社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 福 本 良 平
編 集 (社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印 刷 所 株式会社 明新社

Calendar

2013年3月

1 (金)	友引
2 (土)	先負
3 (日)	仏滅
4 (月) 正副会長会	大安
5 (火)	赤口
6 (水)	先勝
7 (木)	友引
8 (金)	先負
9 (土) フォーラム 奈良の景観とまちづくり！ (奈良県産業会館)	仏滅
10 (日)	大安
11 (月) 2級・木造建築士試験申込書配付 4/15まで	赤口
12 (火)	友引
13 (水) 理事会	先負
14 (木)	仏滅
15 (金)	大安
16 (土) 近建青会議（京都）	赤口
17 (日) 女性委員会見学会 国宝『如庵』を訪ねて	先勝
18 (月)	友引
19 (火)	先負
20 (水) ● 春分の日	仏滅
21 (木)	大安
22 (金)	赤口
23 (土)	先勝
24 (日)	友引
25 (月)	先負
26 (火)	仏滅
27 (水) なら・すまいアップセンター住宅無料相談室 住まいまちづくり委員会 住環境福祉部会「スケッチアップ講習会」	大安
28 (木)	赤口
29 (金)	先勝
30 (土)	友引
31 (日)	先負
4 / 1 (月) 1級建築士試験申込書配付 5/13まで	仏滅
2 (火)	大安
3 (水)	赤口

定期報告業務について

（財）なら建築住宅センター（以下「センター」という。）は4 特定行政庁（奈良県、奈良市、橿原市、生駒市）から建築基準法第12条第1 項並びに第3 項に基づく定期報告書の受付等の業務を受託しております。

また、当該受託業務とは別にセンター独自の業務として、特殊建築物等の所有（管理）者及び調（検）査資格者の利便を図るため、定期報告書の報告時期等の案内や定期報告書の作成及び記載内容等の指導並びに受理通知書及び定期報告済証（ステッカー）の送付等の業務を行っています。

さらに、これらの業務と共に定期報告に係る現地調査や報告書作成のために必要な専門知識を求められる調査者の組織である「奈良県建築防災調査者協会」と協調を図りながら、調査者自らが定期報告業務に必要な知識の習得等を培うための実務講習会の開催等を行い、より適切な定期報告業務を行うための活動をしています。

詳しくは、（財）なら建築住宅センターホームページへ <http://www.zainara-kjc.net/>
定期報告のお問い合わせ窓口 TEL：0742-27-6501／FAX：0742-27-6502

